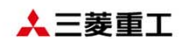




2020年度第1四半期 決算説明資料

2020年8月3日

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



I. 2020年度第1四半期決算実績

・ 決算実績サマリー	4
・ 連結経営成績サマリー	5
・ 定常収益	6
・ セグメント別内訳	7
・ 連結財政状態	8
・ 主要財務指標／キャッシュ・フロー	9
・ セグメント情報	10-12
(受注高・受注残高/売上収益/事業利益)	
・ 事業利益増減分析	13
・ 新型コロナウイルスの影響と状況	14

II. 2020年度業績見通し

・ 業績見通しサマリー	16
・ 定常収益	17
・ セグメント別内訳	18

III. 補足資料 20-24

I . 2020年度第1四半期決算実績

2020年度第1四半期決算実績 サマリー



1Q実績は、新型コロナウイルスの影響下において、前年同期に比べると低調に見えるものの、概ね期首想定通りに推移。
通期見通し達成に向けて、引き続き固定費削減等を推進する。

- 受注高は前年同期比605億円の減少（△8.1%）。
エナジードメインはGTCCと原子力が牽引し、前年同期を上回った。
- 売上収益は新型コロナウイルスの影響による物流・冷熱・ドライブシステムドメインの落ち込みが大きく、前年同期比1,413億円の減少（△15.4%）。
航空・防衛・宇宙は、民間航空機が減少したものの、防衛・宇宙は増加し、前年同期を若干上回った。
- 事業利益は713億円の赤字。そのうち、SpaceJet事業の損失（CRJ事業買収に伴って生じたのれんの減損を含む）は688億円。
- フリーキャッシュフローについては、CRJ事業買収等により前年同期を下回るが、当初想定通りに推移しており、通期見通しに変更はなし。

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved

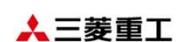
4

決算実績の全体概況について説明します。
5ページ、6ページの数表も併せてご参照ください。

当第1四半期の実績は総じて前年同期を下回っており、低調に見受けられると思いますが、本年5月11日に公表した新型コロナウイルスの影響を踏まえた年間見通しに照らし合わせると、概ね想定範囲内で推移していると評価しています。
通期業績見通しの達成に向けて、工事進捗の挽回や固定費削減等の取り組みを引き続き進めてまいります。

受注、売上収益、事業利益等の各項目については後ほど説明します。

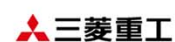
第1四半期決算実績 連結経営成績サマリー



(単位：億円)

	2019年度1Q (利益率)	2020年度1Q (利益率)	増減 (増減率)
受注高	7,502	6,896	△ 605 (△8.1%)
売上収益	9,193	7,780	△ 1,413 (△15.4%)
事業利益	(4.4%) 404	(△9.2%) △ 713	△ 1,118 (△276.6%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(1.8%) 163	(△7.4%) △ 579	△ 742 (△453.7%)
EBITDA	(7.8%) 712	(△4.8%) △ 371	△ 1,084 (△152.1%)
フリーCF	△1,694	△3,395	△1,701 -

第1四半期決算実績 定常収益



(単位：億円)

2020年度1Q	定常収益 (利益率)	SpaceJet 投資	合計 (利益率)
受注高	6,896	-	6,896
売上収益	7,780	-	7,780
事業利益	(△0.3%) △24	△688	(△9.2%) △713
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(0.1%) 6	△585	(△7.4%) △579
EBITDA	(4.1%) 316	△688	(△4.8%) △371
フリーCF	△2,732	△662	△3,395

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

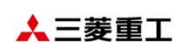
6

5ページの2020年度第1四半期実績をSpaceJet関連のものと、それを除いた定常収益に分解して表示しています。

SpaceJetについて補足すると、事業利益△688億円には、6月1日に買収を完了したカナダBombardier社のCRJ事業買収に伴って生じたのれんに関する減損損失が含まれています。

なお、前年同期においては、SpaceJetの開発費の相当部分を資産計上していたこともあり、54億円の損失にとどまっていました。

第1四半期決算実績 連結経営成績 セグメント別内訳



(単位：億円)

	受 注 高			売上収益			事業利益		
	'19年度 1Q	'20年度 1Q	対前年度 増減	'19年度 1Q	'20年度 1Q	対前年度 増減	'19年度 1Q	'20年度 1Q	対前年度 増減
エナジー	2,315	3,171	+855	3,432	3,140	△ 291	192	3	△ 188
プラント・インフラ	1,911	1,175	△ 736	1,850	1,395	△ 454	68	△ 40	△ 109
物流・冷熱・ ドライブシステム	2,503	1,862	△ 640	2,459	1,829	△ 629	75	△ 26	△ 102
航空・防衛・宇宙	877	765	△ 112	1,521	1,551	+ 29	94	△ 620	△ 715
その他	△ 106	△ 78	+ 27	△ 69	△ 137	△ 67	△ 27	△ 29	△ 2
合計	7,502	6,896	△ 605	9,193	7,780	△ 1,413	404	△ 713	△ 1,118

当社は今年度からセグメントを一部変更しました。
「エナジー」は2019年度以前の「パワー」、「プラント・インフラ」及び「物流・冷熱・ドライブシステム」は「インダストリー & 社会基盤」と対応しています。

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved

7

ドメイン再編に伴い、今年度から開示セグメントを一部見直しています。具体的には、従来「インダストリー & 社会基盤」と称していたセグメントを、「プラント・インフラ」と「物流・冷熱・ドライブシステム」に区分しましたが、対比を容易にするため、この新区分に合わせて前年同期の数字を示しています。

それぞれの内容については、10ページ以降で補足します。

第1四半期決算実績 連結財政状態



(単位：億円)

	'19年度末	'20年度1Q末	対前年度末 増減
売上債権（営業債権、契約資産）	11,880	11,270	△610
棚卸資産	7,262	8,191	+928
その他流動資産	9,242	9,265	+22
（現金及び現金同等物）	(2,816)	(2,195)	(△620)
固定資産	9,963	10,136	+173
投資等	11,508	11,866	+357
資産合計	49,856	50,729	+872
営業債務	8,240	7,173	△1,066
契約負債	8,354	8,175	△179
その他	14,378	14,420	+41
有利子負債	5,982	8,877	+2,894
資本	12,900	12,083	△817
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(12,183)	(11,399)	(△784)
負債・資本合計	49,856	50,729	+872

借入金 +444
コマーシャルペーパー +2,450

配当 △251
当期利益 △579
その他 +46

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved

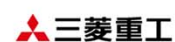
8

総資産は、前年度末から872億円増加し、5兆729億円となりました。
当社の第1四半期においては、総資産が増加、フリーCFがマイナスというのが通常の傾向であり、本年も同様の動きとなっています。
なお、本資料には掲載していませんが、前年同期の総資産は5兆2,161億円でしたので、そこからは約1,400億円減少しています。

また、7月31日に三菱日立パワーシステムズ(株)(MHPS)の株式譲渡が本年9月に実施予定となった旨を公表しましたが、この取引を終えると、総資産が4,078億円圧縮されることになります。

有利子負債の内訳は赤枠内に示しています。フリーCFがマイナスだったこともあり、有利子負債の額は増加していますが、資金調達は特段の問題なく実施出来ています。

第1四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



主要財務指標

	'19年度末	'20年度 1Q末	対前年度末 増減	'20年度 見通し
自己資本比率	24.4%	22.5%	△ 1.9pt	-
有利子負債残高 (単位：億円)	5,982	8,877	+ 2,894	9,500
D/Eレシオ	0.46	0.73	+ 0.27	0.8

キャッシュ・フロー

(単位：億円)

	'19年度 1Q	'20年度 1Q	増減	'20年度 見通し
営業CF	△ 1,199	△ 2,236	△ 1,036	-
投資CF	△ 494	△ 1,159	△ 664	-
フリーCF	△ 1,694	△ 3,395	△ 1,701	△ 4,000

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

9

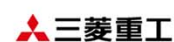
主要財務指標はいずれも悪化傾向のように見えますが、これは当初から想定している年度内の変動の範囲に収まっています。

なお、先ほど申し上げたMHPSの株式譲渡の影響を反映すると、自己資本比率は、ここに記載している22.5%から24.4%となります。

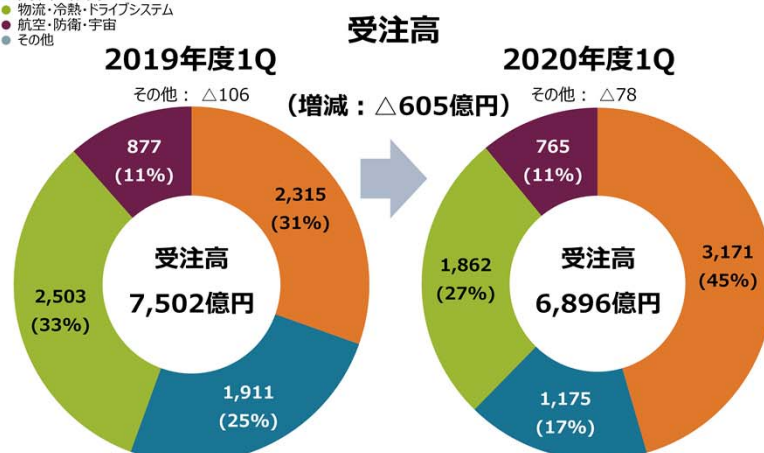
営業CFが前年同期に比べて悪化していますが、主に利益の減少と棚卸資産の増加に起因しています。

投資CFの増加は、主にCRJの買収資金の拠出によるものです。

第1四半期決算実績 セグメント別 <受注高・受注残高>



- エナジー
- プラント・インフラ
- 物流・冷熱・ドライブシステム
- 航空・防衛・宇宙
- その他



■ エナジー	増加	GTCC ^(※1) 、原子力
■ プラント・インフラ	減少	製鉄機械
■ 物流・冷熱・ドライブシステム	減少	ターボチャージャ、物流機器
■ 航空・防衛・宇宙	減少	民間航空機

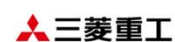
(※1) GTCC : Gas Turbine Combined Cycle (※2)ターボチャージャ、物流機器等の量産品は含まない
 (※3) 持分法適用会社(MHI Vestas Offshore Wind A/S) による事業であるため、概数を受注残高合計の外数として表示



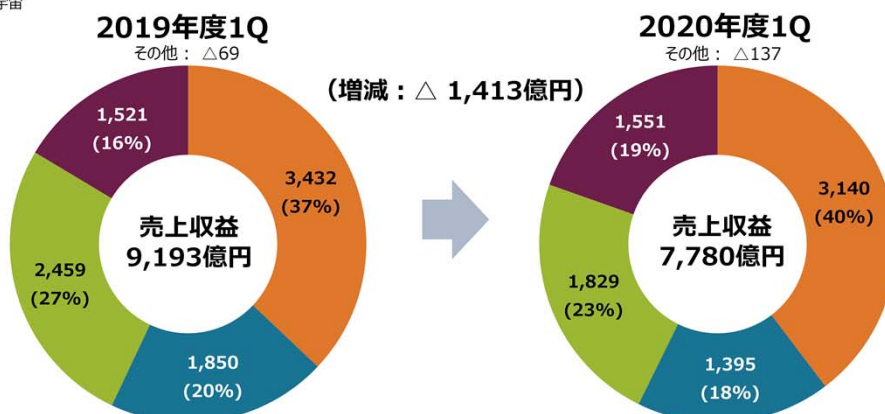
受注高は新型コロナウイルスの影響もあり、前年同期比で全般的に低調でしたが、エナジーにおいてはGTCCでプラントの受注があったことなどにより増加しました。受注残高は、当期の売上収益が受注高を上回ったことから2019年度末に比べて減少しています。

なお、受注残高のグラフで破線で示している洋上風車については、当社とデンマークVESTAS社の合併事業として実施しているものです。6月にスコットランドで大型プロジェクトを受注した影響で受注残高が増加しています。

第1四半期決算実績 セグメント別 <売上収益>



- エナジー
- プラント・インフラ
- 物流・冷熱・ドライブシステム
- 航空・防衛・宇宙



■ エナジー	増収	原子力
	減収	スチームパワー、航空エンジン
■ プラント・インフラ	減収	製鉄機械、エンジニアリング、工作機械
■ 物流・冷熱・ドライブシステム	減収	ターボチャージャ、物流機器、カーエアコン
■ 航空・防衛・宇宙	増収	防衛航空機・飛昇体
	減収	民間航空機

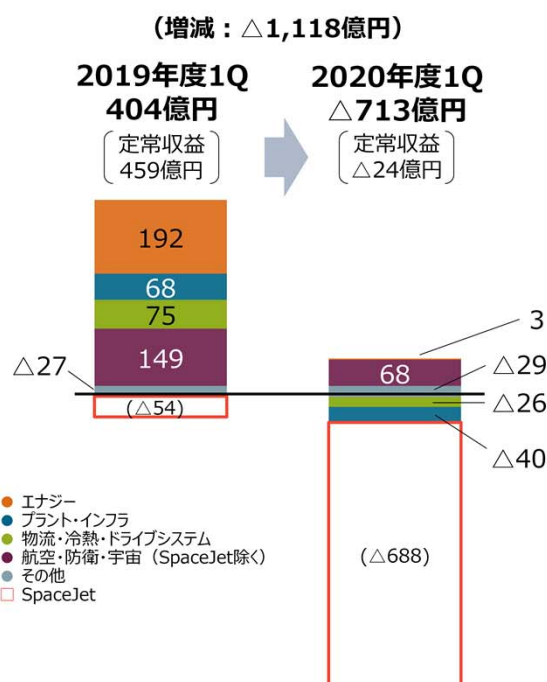
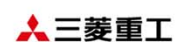
© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

11

新型コロナウイルス感染拡大による経済環境変化の影響を大きく受けている事業、特に航空機関連や自動車関連、その他量産品事業を中心に減収の部門が多くなっています。

一方で、国内のインフラを中心とする原子力や防衛関連は堅調に推移しています。

第1四半期決算実績 セグメント別 <事業利益>



■ エナジー

	事業	要因
増益	原子力	売上増加 他
減益	スチームパワー 航空エンジン	売上減少 他

■ プラント・インフラ

減益	エンジニアリング 工作機械	売上減少 他
----	------------------	--------

■ 物流・冷熱・ドライブシステム

減益	ターボチャージャ 物流機器 カーエアコン	売上減少 他
----	----------------------------	--------

■ 航空・防衛・宇宙

増益	防衛・宇宙	売上増加 他
減益	民間航空機 SpaceJet	売上減少 他 CRJのれん減損 他

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

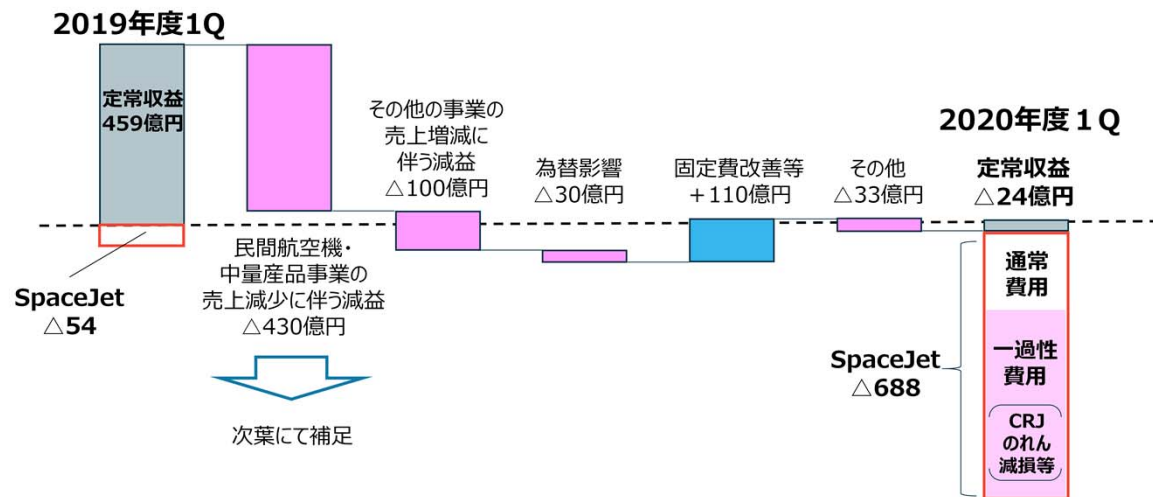
12

前年同期と比べると、前頁の売上収益と同様の動きをしています。

なお、19ページ以降の「補足資料」の中で、各セグメントの状況等についても記載していますので、併せてご確認ください。

第1四半期決算実績 事業利益増減分析

- 民間航空機事業・中量産品事業において、足元の新型コロナウイルスの影響が大きいものの、固定費削減等の緊急対策を講じて、影響最小化を図っている
- SpaceJet関連は、通常の開発費が△200億円(通期見通し△600億円)、CRJ事業買収に伴うのれん減損等の一過性要因が△500億円(通期見通し△600億円)



© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved

13

本スライドでは、前年同期対比での事業利益の増減要因について説明しています。

2019年度第1四半期の事業利益はSpaceJetを除く定常収益ベースで459億円でした。当年度第1四半期の定常収益は△24億円でしたが、その差を示しています。

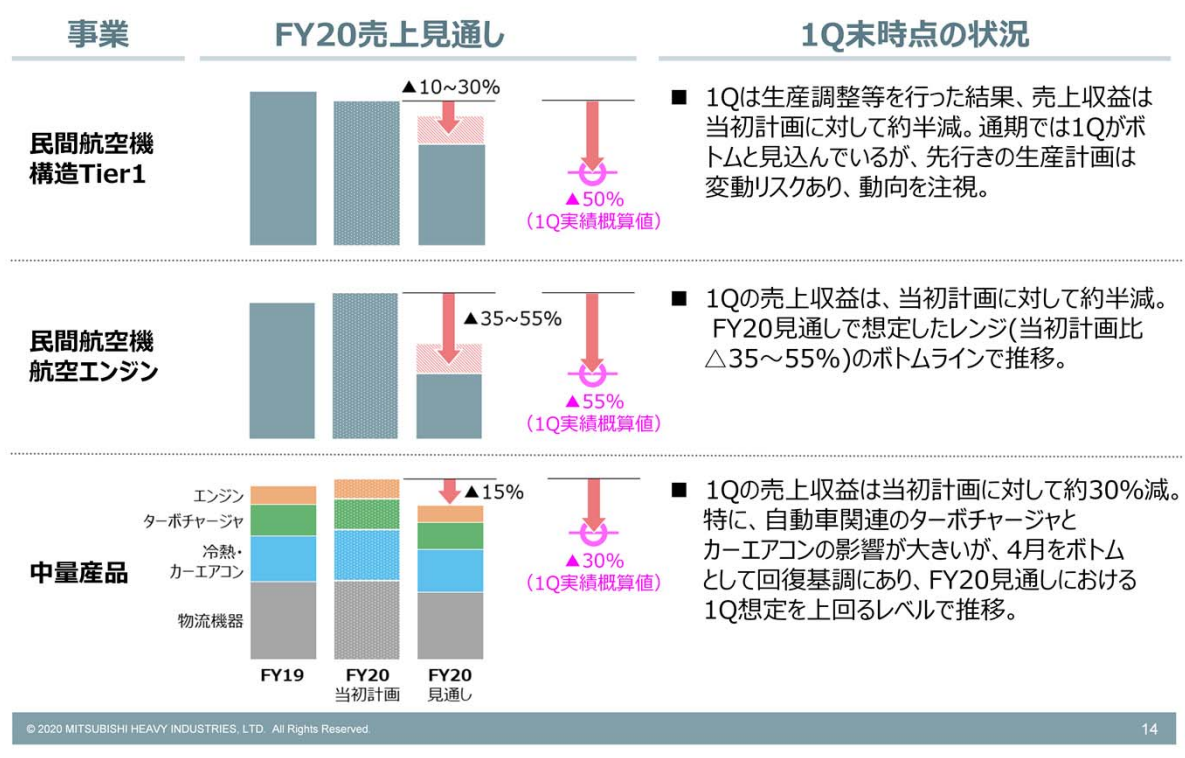
ピンク色の左端△430億円は、民間航空機や中量産品事業における主として新型コロナウイルス影響による売上減少に伴う減益を示しています。これは年度見通し公表時に示した新型コロナウイルスによる減益影響1,400億円に概ね対応するものです。四半期ベースでは第1四半期が新型コロナウイルスの影響が最も大きいと想定しており、通期見通しとの対比では想定範囲内で推移しています。詳細については次ページで補足します。

その右側の△100億円は、今述べた事業以外の事業における売上増減による減益です。これには、新型コロナウイルスによる海外プラント工事の遅れ等の影響も含まれています。

為替影響は、前年同期に比べて売上平均計上レートが1ドル当り3円強円高に振れた(110.87円から107.43円)ことなどによる利益減少です。

ここから固定費削減等のコスト改善が+110億円、その他プロダクトミックス変動などが△33億円となっています。

新型コロナウイルスの影響と状況



このスライドは、本年5月11日に今年度の見通しを説明した際の新型コロナウイルス影響の想定に、第1四半期時点での状況を追記したものです。

民間航空機のTier1(Boeing向けを中心とした機体の供給事業)の売上収益は、第1四半期においては新型コロナウイルスの影響を考慮しない当初計画に対して約半減となりました。OEM(Original Equipment Manufacturer)での生産調整を受けて当社でも生産調整を行ったことなどから、減少幅が大きく出ています。通期では第1四半期がボトムと見込んでいますが、先行きの生産計画にはまだ流動的な部分もあるため動向を注視しています。場合によっては、当初予定の最大減少幅を若干超過するリスクも踏まえながら対策を講じているところです。

航空エンジンについては、第1四半期は当初想定したボトムラインで進捗しました。底打ちした印象はありますので、このまま推移すると通期でも当初想定範囲内に収まるものとみています。

中量産品については、第1四半期では想定レンジを超える減収のように見えるかもしれませんが、4月をボトムとして回復傾向にあり、中量産品全体としては、年度首の計画よりも若干良い推移となっています。

第1四半期の実績を総括すると、繰り返しになりますが、CRJ買収に伴って生じたのれんの減損損失の計上や、新型コロナウイルスの影響による減収等により、前年同期比で大幅な減収減益となりましたが、その損失の程度は通期見通しの範囲内でコントロール出来ており、概ね手堅く推移していると考えています。

Ⅱ. 2020年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

従いまして、この業績見通しにのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2020年度業績見通し サマリー



前回公表値（2020年5月11日）より変更なし

（単位：億円）

	2019年度実績 (利益率)	2020年度見通し (利益率)	対前年度増減 (増減率)
受 注 高	41,686	35,000	△ 6,686 (△16.0%)
売上収益	40,413	38,000	△ 2,413 (△6.0%)
事業利益	(△0.7%) △295	0	+295
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(2.2%) 871	0	△ 871
R O E	6.6%	-	-
EBITDA	(2.8%) 1,151	(3.7%) 1,400	+249 (+21.6%)
フリーCF	2,129	△4,000	△6,129 -
配当	150円 (中間75円/期末75円)	75円 (中間0円/期末75円)	【未確定外貨】 17億ドル 3億ユーロ 【前提為替レート】 1ドル = 110円 1ユーロ = 120円

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved

16

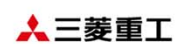
16ページから18ページでは通期の業績見通しを示していますが、5月11日に公表した数値から変更はありません。

第1四半期の進捗が年度見通しに比べて少し低調に見えるかも知れませんが、新型コロナウイルスの影響が最も大きいのが第1四半期と想定しており、通期予想のラインからは大きく外れていないことから据え置いているものです。

もちろん、この先も経済情勢は不確定な面が大きいと感じていますので、油断することなく引き続き注視を続け、その状況変化に応じて施策を講じていきます。

以上で2020年度第1四半期決算の説明を終わります。

2020年度業績見通し 定常収益

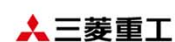


前回公表値（2020年5月11日）より変更なし

（単位：億円）

2020年度見通し	定常収益 (利益率)	SpaceJet 投資	合計 (利益率)
受注高	35,000	-	35,000
売上収益	38,000	-	38,000
事業利益	(3.2%) 1,200	△1,200	0
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(2.4%) 900	△900	0
ROE	-	-	-
EBITDA	(6.8%) 2,600	△1,200	(3.7%) 1,400
フリーCF	△2,800	△1,200	△4,000

2020年度業績見通し セグメント別内訳



前回公表値（2020年5月11日）より変更なし

（単位：億円）

	受 注 高			売上収益			事業利益		
	'19年度 実績	'20年度 見通し	対前年度 増減	'19年度 実績	'20年度 見通し	対前年度 増減	'19年度 実績	'20年度 見通し	対前年度 増減
エナジー	17,721	14,500	△ 3,221	15,902	15,500	△ 402	1,443	1,000	△ 443
プラント・インフラ	7,399	6,500	△ 899	7,929	7,500	△ 429	255	300	+44
物流・冷熱・ ドライブシステム	9,859	8,500	△ 1,359	9,901	8,500	△ 1,401	293	△ 300	△ 593
航空・防衛・宇宙	7,192	6,000	△ 1,192	7,049	7,000	△ 49	△ 2,087	△ 900	+1,187
その他	△ 485	△ 500	△ 14	△ 369	△ 500	△ 130	△ 200	△ 100	+100
合計	41,686	35,000	△ 6,686	40,413	38,000	△ 2,413	△ 295	0	+295

当社は今年度からセグメントを一部変更しました。

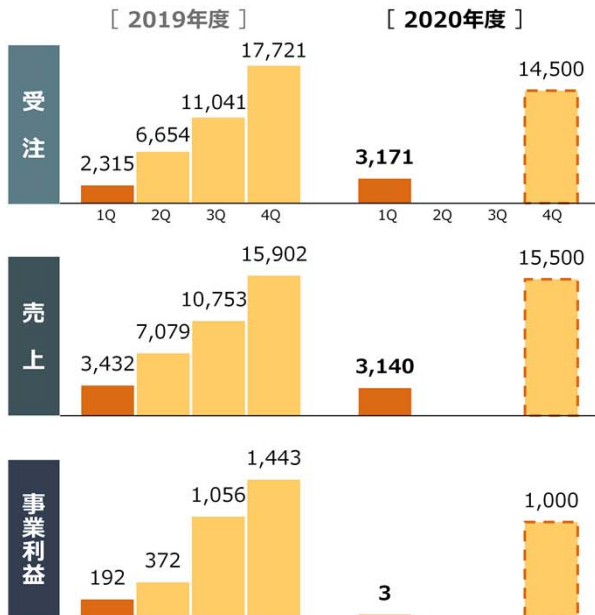
「エナジー」は2019年度以前の「パワー」、「プラント・インフラ」及び「物流・冷熱・ドライブシステム」は「インダストリー & 社会基盤」と対応しています。

Ⅲ. 補足資料

補足資料 第1四半期決算実績〈エナジー〉



(億円・各期の数値は累計)



- 航空エンジンの1Qの売上収益は、前年同期比約半減であるが、概ねFY20見通しの範囲内で推移
- 火力事業への新型コロナウイルスの影響は比較的軽微と想定していたが、1Q時点では一部の海外プロジェクトにおいて工程進捗の遅れやサービス工事の後ろ倒しが発生。2Q以降にキャッチアップする見込み

【ガスタービン受注台数・契約残台数】

2020年度1Q : 2台

	米州	アジア	EMEA	その他	合計	契約残台数
大型	-	2	-	-	2	45
中小型	-	-	-	-	0	15
合計	0	2	0	0	2	60

2019年度累計 : 32台

	米州	アジア	EMEA	その他	合計	契約残台数
大型	7	10	2	2	21	49
中小型	3	2	6	-	11	15
合計	10	12	8	2	32	64

2019年度1Q : 6台

	米州	アジア	EMEA	その他	合計	契約残台数
大型	-	1	2	-	3	44
中小型	3	-	-	-	3	11
合計	3	1	2	0	6	55

補足資料 第1四半期決算実績〈プラント・インフラ〉



(億円・各期の数値は累計)

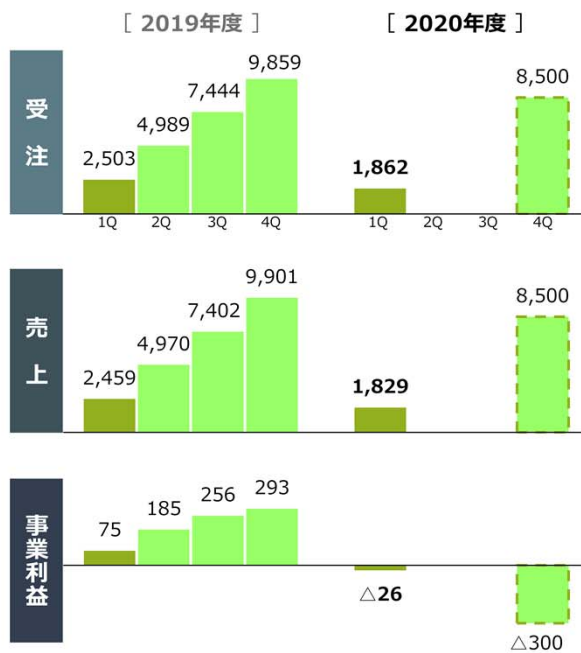


- 期首時点では、新型コロナウイルス影響は軽微と想定していたが、一部の海外プロジェクトにおいて工事中断・工期延長が発生しており、状況をモニタリング中
- 工作機械の1Qの売上収益は、前年同期比約半減。固定費の適正化を推進中

補足資料 第1四半期決算実績〈物流・冷熱・ドライブシステム〉



(億円・各期の数値は累計)

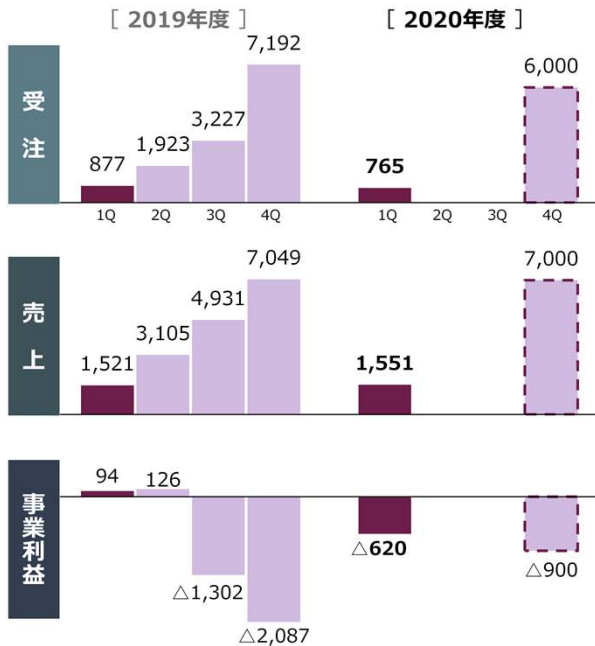


- 1Qの売上収益は前年同期比で約30%減。特に、自動車関連のターボチャージャとカーエアコンの影響が大きい。4月をボトムとして回復基調
- 固定費削減等の対策効果も現れ、1Qの事業利益は△26億円と、期首想定(通期見通し△300億円)を上回るレベルで推移

補足資料 第1四半期決算実績〈航空・防衛・宇宙〉



(億円・各期の数値は累計)



- 民間航空機構造Tier1の1Qの売上収益は、生産調整等を行った結果、前年同期比で約半減。通期では1Qがボトムと見込んでいるが、先行きの生産計画は変動リスクあり、引き続き操業調整や固定費削減を推進
- 防衛・宇宙は堅調を維持
- SpaceJet事業の損失（CRJ事業買収に伴って生じたのれんの減損を含む）は688億円

【SpaceJet 累計受注機数】(2020年6月30日現在)
287機（確定 163機、オプションおよび購入権 124機）

【B777/B777X 引渡機数】

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
2019年度	16	14	13	11	54
2020年度	6	-	-	-	-

【B787 引渡機数】

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
2019年度	43	42	38	43	166
2020年度	18	-	-	-	-

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)

	'19年度 1Q	'20年度 1Q	'20年度 見通し
研究開発費	273	283	1,400
減価償却費	308	342	1,400
設備投資	316	284	1,500

2. 販売費及び一般管理費

(単位：億円)

	'19年度 1Q	'20年度 1Q
販管費	1,348	1,304

3. 為替レート（売上計上平均レート）

	'19年度 1Q	'20年度 1Q
USドル（円／USドル）	110.9	107.4
ユーロ（円／ユーロ）	124.5	117.5

4. 海外地域別売上収益

(単位：億円)

	'19年度1Q	'20年度1Q
アジア	1,706 (19%)	1,258 (16%)
北米	1,777 (19%)	1,163 (15%)
欧州	873 (9%)	574 (7%)
中南米	341 (4%)	149 (2%)
中東	240 (3%)	123 (2%)
オセアニア	38 (0%)	38 (0%)
アフリカ	179 (2%)	118 (2%)
合計	5,158 (56%)	3,425 (44%)

MOVE THE WORLD FORWARD

**mitsubishi
heavy
industries
group**

© 2020 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.